

「はじまりは愛着から」～人を信じ、自分を信じる子どもに～

本市が初めてこども園を開設した時、私は園長に就任しました。その時、こども園という短時間と長時間が同施設に共存することがどういうことなのか・・・子どもにとってそれによいのか・・・など懸念されましたが、これからの就学前教育の在り方と親の就労に応える子育て支援を両立させるためには大切な保育施設の在り方として国も提唱していたこともあり、県内11番目でスタートしました。

開設して1か月頃、保護者からこんな疑問や意見が投げかけられました。「保育所に行っていた時は泣かなかったのに、こども園に入ってから毎日『おとうちゃん、おかあちゃん早う迎えに来て・・・早う帰りたい・・・』と毎日泣いて言うのです。わがままな子どもになったような・・・認定こども園は子どもにとってどうなのでしょうね、とのご意見でした。

早く帰っていく子どもを見ているうちに自分のほんとうの思いに気づいた子ども。泣きながら親に伝えたこと・・・裏を返せば「おとうちゃん、おかあちゃん好き！」なんですよ。と保護者に返すと・・・改めて子どもの本心に触れ、子どもの思いに気づき、その日から少しでも早く迎えにきてくださるようになりました。保育スタイルが保護者ニーズによって変化することによって様々に課題が生まれてもきますが、このことは、改めて親が子どもを、子どもが親を思う気持ち、関係性に気づけたことに繋がりました。認定こども園を始めて、改めて親子が真正面から向き合い、親子の関係性を構築するよい機会を得た思いでした。また、就学前教育の一番大切なことに気づかされました。

児童精神科医佐々木正美先生は「はじまりは愛着から」で、人を信じ、自分を信じる気持ち・・・それは、親子の愛着関係から始まるということ、しかも、子どもの内面にあるほんとうの気持ちに触れ、その発達に応じた欲求、要求、希望に真正面から愛情をもって受け入れていく親に育てられることが自尊心の育みの一歩であると示しておられます。子どもは親の愛情で育つ・・・はじまりは愛着にある・・・

あベ えいこ

教育長職務代理者 安倍 映子

素直な心

子どもたちには「私は素直な人です」って胸を張って言える大人になって欲しい。

大人になるまで、そして大人になってからも、それまで培ってきた知識や経験は大切な自分の財産でもあります。時には悪い意味でのプライドや傲慢さも生じさせてしまうことがあります。他人からの言葉に耳を傾けることが出来ずにいると

人生にたくさん用意されている学びの機会に気付かなくなるかもしれません。

「自分は正しい！間違っていない！」という自尊感情はもちろん大切ですが、他を認め、理解しようとし、自分とは違う価値観や意見、感情を取り入れる事は貴重な学びの機会でもあります。それは誰にでも出来ることではないからこそ、これから生きていくうえで自分自身に良い影響を与えてくれるのではないのでしょうか。

①素直な心を持つ ②何でも否定から始めるのではない

素直な気持ちはどんなに強い言葉よりも強力。素直な人は強く可愛い。

にしだ よしなり

委員 西田 佳成

実感を伴った豊かな学び

新型コロナが5類に移行し様々な制限が緩和されました。本市の学校園でも遊びや学び、学習活動、校園での生活がコロナ禍以前に戻りつつあり、子どもたちの笑顔と活気が戻ってきました。以前ある就学前施設を雨降りの日に訪れた時、楽しそうに歌を歌って登園する親子を見かけました。出迎えた園の先生に園児は「かさからピチピチ聞こえる。足はチャブチャブ言ってる。歌と同じ」、すかさず先生は「～♪ぴちぴち ちゃぶちゃぶ らんらんらん♪～やね」と声をかけられました。歌うだけでは味わえない実感を伴った学びの瞬間を目の当たりにしました。

この3年間は教育現場に大きな変化をもたらせました。GIGAスクール構想により1人1台のタブレット端末などICT機器を活用した学習活動が一定の効果を上げ、日々の授業改善にも役立っています。

そして今、コロナ禍で停滞した地域探索、交流活動、調査活動、特別活動、文化体験活動、ものづくり活動等、見て聴いて触れて五感を働かせたり、心で感じたりしながら仲間と顔を突き合わせて学び合うことができるのです。そんな学びの機会を増やし、社会とのつながりを強め、子どもたちの「実感を伴った豊かな学び」を皆さんと支えていきたいと思えます。

おおふけ ひでたか

委員 大更 秀尚

子どもたちを守りたい

今日の子育てや教育方法など保護者の私たちも戸惑うばかりです。

その中でも女の子、男の子の性別に関係なく義務教育の子どもや幼児までもが、性被害になりうる社会背景を危惧する中で子育てをしています。

現在の子どもの体は著しく成長していますが、心と体のバランスは取れていません。

子どもは自分や相手の心や体を大切にするを学習し、保護者は愛おしい子どもの成長を守る環境をつくるのが大事だと思います。

このことは、多様化・複雑化する社会の今、学校や教育委員会、教育行政の重要課題のうちのひとつであると思います。そして、日々子ども達に身近な存在である地域の方々との連携を深めるため、情報の共有などの協力体制がさらに必要ではないかと思えます。

近江八幡市で育った子どもたちが将来「誇れるものは？あなたの宝物は？」と尋ねられた時に「近江八幡市で育った事が誇りです。宝物は自分を育ててくれた保護者や地域です。」と言ってもらえるような近江八幡市を皆で作ってあげたいと思っています。

まるやま じゅんこ

委員 圓山 淳子
(保護者代表※)

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第5項により、委員の任命にあたっては、委員のうちに保護者が含まれるようにしなければならないと定められています。



つなぐ力 つながる未来

近江八幡市 教育委員からのメッセージ